View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE

〔島根県立大学短期大学部松江キャンパス研究紀要　Vol. 52　133 ～ 143（2014）〕

島根県における保育士・幼稚園教諭の採用実態と人材養成の課題（３）

－幼稚園教諭一種免許取得者の雇用拡大に対する考え方の分析－

矢　島　毅　昌　　山　下　由紀恵　　岸　本　　強
小　山　優　子　　福　井　一　尊
（保育学科）

Issues concerning the employment situation and talent training of nursery school and kindergarten teachers in Shimane Prefecture (3)
－Analysis of attitude about expansion of employment for type I kindergarten teacher's licensee－

Takaaki Yajima, Yukie Yamashita, Tsuyoshi Kishimoto, Yuko Koyama, Kazutaka Fukui

キーワード：保育　Nursery Education
幼稚園教諭　Kindergarten teachers
養成大学　Teacher Training College

１．目的

幼稚園教諭一種免許取得者の増大に向けた国の方針は、2006（平成18）年の「幼児教育振興アクションプログラム」において、教員養成の改善・充実のために幼稚園教諭一種免許取得機会の拡大を図ること、教員採用・配置・待遇の改善と充実のために幼稚園教諭一種免許所有教員の採用・配置を促進することが示されている。そして、2013（平成25）年の「子ども・子育て支援法に基づく基本指針（案）」では、「特定教育・保育及び特定地域型保育を行う者並びに地域子ども・子育て支援事業に従事する者の確保及び資質の向上のために講ずる措置に関する事項」において、「幼稚園教諭については、国は教育委員会、大学等との連携及び協働による研修等の充実や幼稚園教諭一種免許取得者数の増加に係る必要な支援策等を講じるとともに、都道府県は、これらの施策等も活用して、積極的に幼稚園教諭の人材確保及び質の向上を図ること」と定められている。

ただし現状は、幼稚園では少子化や幼保一体化などによる経営の見直しが進められており、また保育所に勤務する保育士の多くが幼稚園教諭免許二種免許の取得者であるという状況である。幼稚園教諭一種免許取得のあり方は、行政の制度設計や運営を大きく変革する以上に、個々の現場の経営や意識を大きく変革するものであると考えられる。

そこで本稿では、2013（平成25）年に本学が実施

した島根県の保育士・幼稚園教諭免許資格者調査の分析結果の報告「島根県における保育士・幼稚園教諭の採用実態と人材養成の課題（１）（２）」を踏まえ、同調査のＱ７に設けられた自由記述式質問項目「国は「子ども子育て会議」で幼稚園教諭１種免許取得者の増大を方針として挙げていますが、４年制大学レベルの教育を受けた資格者の雇用の受け皿は、今後拡大するとお考えですか。」への回答内容を分析することを通じ、島根県内の保育現場が抱く幼稚園教諭一種免許取得者増大時代に備えた考え方や、これからの養成大学に求められる教育のあり方についての見取り図をつくることを目的とする。

２．方法

１）本稿において着目する観点の設定

本稿では、これまでの国の方針や「島根県における保育士・幼稚園教諭の採用実態と人材養成の課題（１）（２）」の分析結果を踏まえ、かつ「４年制大学レベルの教育を受けた資格者の雇用の受け皿」との関連を考慮し、「保育(者)の質の向上」「幼保一体化」「特別な支援を必要とする子ども」「長期化する養成大学よりも現場で学ぶ」「少子化」「給与面での待遇」「即戦力」の7つの観点から自由記述の内容を分析することにした[1)]。もちろん、これらの観点の種類は他にも様々な（原理的には無限の）可能性があり、分析者によるこれらの観点の設定が、本稿の目的および自由記述欄への回答内容に対して妥当であるかが問われよう。本稿では、本文末に資料として自由記述欄回答一覧を掲載しているので、それを検証用資料として参照いただきたい。

２）自由記述欄回答一覧の作成にあたって

Ｑ７を「かなりそう思う」「そう思う」と回答した理由の自由記述についてはA-XX、「そう思わない」と回答した理由の自由記述についてはB-XX、「わからない」と回答した理由の、または回答なし・複数回答などイレギュラーな回答をしたものの自由記述についてはC-XXと整理番号を付与し、一覧を作成した。

自由記述欄回答一覧では、原則として原文のすべてを掲載しているが、内容の特性上、以下のように原文に一部手を加えている。

①施設名が書かれた箇所は「○○」と表記した。

②明らかに誤字と思われる表記や、固有名詞の表記の相違（例：○認定こども園　×認定子ども園）については、正しい表記に改めた[2)]。

③質問への回答に直接関係しない断り書きについては省略した。

３．調査データの分析結果：雇用拡大に対する肯定意見／否定意見の理由

１）肯定意見を中心とするもの

（１）「保育(者)の質の向上」

肯定意見の理由としてまず挙げられるのは、保育（者）の質の向上のためには４年制大学レベルの教育を受けた幼稚園教諭一種免許取得者が必要だとするもので、おおむね国の方針と軌を一にすると言える考え方である。たとえば「保育現場で専門知識が幅広く求められる事も多くなり、４年制大学レベルの教育を受けた職員の活躍が今後ますます必要とされる」（A-19）、「保育士の質の向上、レベルアップにも幼稚園１種免許取得者の採用は必要である」（A-71）などが挙げられる。また「理論だけでなく、実習等を充実させてから現場へ出ていく必要があるので、４年制レベルの教育の雇用の受け皿は拡大する」（A-63）など、養成大学の年限長期化による教育内容の充実も期待されている。

なお、４年制大学レベルの教育の必要性は短期大学との比較で論じられることもあり、「認定こども園が増加している中で、制度の変化と乳幼児教育の重要性からして、保育士と幼稚園資格両方が望ましい。２つの資格を２年間で修得するにはかなりハードであり、これから４年間の勉学期間が必要と思われる」（A-77）、「２年間と４年間の社会人への準備期間の違いかもしれないがレベルの差は感じることが多い」（A-８）、「短大卒では、考える力が弱い。大人として成熟していない」（A-43）、「短大卒の新任保育士の多くは、社会性や保育の質が低い」（A-72）、「２年制卒は20歳、４年制卒は22歳といった年齢の違いから経験や思考力の差を感じます。雇用の

際に、学力・適性・性格などの条件が同じであるなら、４年制卒の人を選びたいと思います」（A-91）という回答が見られた。そして、両者は保育者から比較されるだけではなく、「保護者自身の高学歴化を考えると１種免許、四年制大学卒業者が好感をもたれることは言うまでもありません」（A-60）、「４年生大学を出ていた方が、短大より知識があると思われている」（A-13）という回答に見られるように、保護者や社会からも比較される状況になっている[3)]。

（２）「幼保一体化」

幼保一体化施設においては幼稚園教諭免許・保育士資格の併有が求められるが、「幼保一元化の方向に有り、保育園としては幼１種免許取得者採用を考える」（A-67）、「今後は認定こども園への移行を考えていかなくてはならないのでより専門性の高い人材が求められるのは必至である」（A-48）、「将来的な事を考えると保育士と幼稚園教諭一種があればもめることもないと思う」（A-12）など、幼稚園教諭一種免許の併有の必要性を意識した回答が見られた。

また、「こども園での教育＝学校教育」という定義の影響からか、「乳幼児教育が今後ますます重要で必要とされつつある」（A-62）、「認定こども園移行にともない、幼児教育が学校教育として表記される」（A-70）ことを理由とする肯定意見が見られた。

（３）「特別な支援を必要とする子ども」

近年は特別支援のニーズが高まる傾向にあるが、「いろいろな問題を抱えている子が多いのでそれに対応するために知識が必要である」（A-87）、「最近、特に要保護家庭児、特別支援を要する児童等が増えてきている現状があります。短大では時間数が足りないのではないか」（A-57）、「社会的養護の担い手として、保育者の専門性、重要性を期待する」（A-75）という回答が見られた。４年制保育士養成課程と幼稚園教諭一種免許の一体化を目指す制度改正案が、こうした考え方に応えるものになることが期待されよう。

２）否定意見を中心とするもの

（１）「長期化する養成大学よりも現場で学ぶ」

他方で、否定意見の理由としてまず挙げられるのは、資格のレベルの高さやそのための養成年限の長期化よりも、早くから保育現場で働きながら学ぶことを重視する考え方である。たとえば「頭でっかちになり理論ばかり」（B- ６）、「机上でたくさんなことを知識で得たり、覚えたりすることがベストと思わない」（B-11）、「机上より現場で学ぶことが多い」（B-12）、「２年制課程で十分であり早く現場に出て経験をつんでもらいたい」（B-28）、「現場においては知識も大切だが、経験がより大切」（B-48）などの回答が見られた。

また、４年制大学レベルの教育を受けて幼稚園教諭一種免許を取得できることについては、「学識的レベルが高いに越したことはないが、１種と２種で、どれだけの差があるのかは疑問」（B-20）、「２年制４年制、１種２種よりも仕事を行うにあたっての考え方、熱意等の人間性が重要」（B-55）という懐疑的な考え方が見られた。

（２）「少子化」

保育所不足による待機児童問題が大きな社会問題とされている現状ではあるが、「雇用の受け皿は拡大するか？」という質問に対しては、「子どもの数は、そう極端に増えていないため、今現在ある受け皿から拡大するとはあまり思えない」（B-13）、「現在は待機児がいるので、そういった資格等と言われていますが、いつまでも続かないと思います」（B-31）、「子供が減ってきている現状では現在の職員を解雇しないことには拡大の余地がない」（B-45）、「園児数の減少により、雇用が増えることはないと思う」（B-64）、「子どもの減少により雇用の拡大は望めないと思うが、離退職者はあるし、認定こども園等の増加を考えると需要は横ばいくらいかと思う」（C- ７）など、少子化を理由とする否定意見が見られた。

また、「島根県における保育士・幼稚園教諭の採用実態と人材養成の課題（１）」で見たように、2001年調査時に比べて幼稚園は減少傾向が顕著であるが、それは「幼稚園の統廃合がすすむ状況にあり、

雇用が厳しくなっていく状況」(B-22)、「公立幼稚園は園児減少等による統廃合等（経済的理由も加わって）があり、雇用の拡大が望めない現状」(B-54)の回答にも表れている。

3）肯定／否定意見が分かれる・絡み合うもの

（1）「給与面での待遇」

先の「少子化」で垣間見えるように、保育施設をとりまく厳しい現状は、４年制大学レベルの教育を受けた幼稚園教諭一種免許取得者の雇用において大きな障壁となっている。まず否定意見については、「それに見合う給与体系、運営費の仕組みになっていない」(B- ４)、「４年制でも短大卒でも仕事の内容は同じでも給与の面で差がつくためなかなか４年制を雇用する職場は少ない」(B-10)、「人件費に見合う補助金が保障されなければ、採用に至らない」(B-27)、「正規雇用が拡大していかなければ難しいと考える。若者が安心、安定して働ける雇用状況を創出することが先決」(B-32)、「保育士は多様な専門性を今後ますます求められるが、その処遇はたいへん低く支払える給与も低い」(B-37)、「大学卒の人材を数多く雇用できるほどの収入はない」(B-47)、「給与等の待遇の改善がなされない限り、高い資格云々は二の次」(B-58)、「人件費が高くなるため雇用は拡がらない」(B-59）など、雇用する側の厳しい経営状況が窺える。また、雇用される側も４年制大学卒に見合った待遇を期待するところであるが、「４年制大学卒で期待される程の給与の支給が難しい」(B-23)、「４年大学卒の処遇が一般企業の様には出来ない」(B-44）という状況もある。

肯定意見を回答した施設の中にも、「今までは、４年大学を出た人が求人募集に来ることがなかった」(A-79)、「受け皿はあるが、給与問題など雇用形態が不安定であり、希望が少ないのではないか」(A-46）というように、待遇面での難しさを感じている様子が見られる。

なお、幼稚園教諭一種免許取得者の増大は国の方針であるが、施設側は「国がそのように示してくれば、事業所は従っていくようになるのではないか」(A-66)、「制度的に必要にせまられない限り、今のところ拡大はないと思う」(B-33)、「学歴は全く無意味です。ただ、法律により資格要件が定まっているので雇用せざるを得ない状況です」(C- １）と考えており、国の方針といえども実際に対応するのは厳しいという現状が感じられる。

（2）「即戦力」

すぐに保育現場で活躍できる「即戦力」の人材は雇用されやすいと思われるが、そうした人材と４年制大学レベルの教育との関係[4)]についても、賛否が分かれた。肯定意見については、「専門知識が深まり即戦力が期待できるから」(A-33)、「二年間の在学では、なかなか保育士の専門的な知識も得られないと思う。（足りないと思う）四年間のうちに資質を向上してすぐに現場で適用できる人材を育ててほしいと思う」(A-86）と幼稚園教諭一種免許取得者への期待を寄せた回答もあれば、幼稚園教諭一種免許取得者の雇用拡大を肯定的に考えつつ「１種、２種に関わらず幼児教育が実践でき、即、現場で役立つ人を育ててほしい」(A-45）と養成大学へ希望を寄せた回答も見られた。

否定意見については、「２年間であっても、必要な資質は、社会人としての基本的な事項、コミュニケーション力、課題意識、困難な事態に対応する力等です。４年制大学レベルの教育のみを重視にならないように願います。現場での即戦力が必要です」(B-40)、「４年大学を出たからといって保育が出来るわけではない。※保育士不足解消が第一条件です。現在も不足しており、すぐに現場で保育が出来る職員が欲しいです」(B-65）というように、４年制大学レベルの教育の枠外にあるものを「即戦力」と結びつける回答が見られた。

４．考察ならびに今後の課題

１）雇用についての考察と課題

４年制大学レベルの教育を受けた幼稚園教諭一種免許取得者の雇用拡大に対する質問への回答からは、保育者の雇用を取り巻く厳しい現状が浮き彫りになった。国は幼稚園教諭の待遇改善も目指して幼稚園教諭一種免許取得者数とその採用者数の増加を

図っているが、経営上それに対応できないと回答した施設も少なくない。現場の感覚としては、国の方針が「処遇の課題等、連動した方針でない」（B-49）状況であり、充分な支援なしに方針が推し進められると、施設の経営が成り立たなくなるおそれがあるだろう。「幼稚園１種免許取得者を主として採用する園がかなり出る一方、従来どおり２種免許で充分と考える園も多く存在し、いわゆる二極化が進んで来る」（A-60）可能性も高いのではないかと思われる。

雇用を取り巻く厳しい現状は、島根県に固有の現象とは限らない。たとえば、2011（平成23）年に九州保健福祉大学が宮崎県内の保育所・幼稚園を対象に実施した調査でも、４年制養成課程卒業者の専門性や社会性に期待し採用を検討する施設が半数を超えている一方で、給与面を考えたときに採用が困難だと考える施設も存在する現状が見られる（松原2013）。なお、2013（平成25年）10月18日に開催された子ども・子育て会議の基準検討部会において、2015年度より始まる新たな子育て支援制度で支払われる保育サービスの「公定価格」が検討された。そこでは、幼稚園･保育所等の経営実態調査をもとに、質の高い教育・保育の提供や職員の定着・確保という観点から、現在の公費負担の水準を念頭に、処遇改善等の質の改善とセットで議論していく必要があると提案されている[5)]。方針では、2014年６月をめどに単価の目安が示されるが、この「公定価格」が幼稚園教諭一種免許取得者の雇用拡大につながる設定となるか、今後の推移を注視する必要があるだろう。

このように、雇用については、施設の経営状況等による固有の課題としてのみならず、地域の経済や人口等とも関連する個別・具体的な地域課題として探究する必要があるため、今回の調査をもとに論を改めたい。

２）４年制養成課程についての考察と課題

他方、保育現場が抱いている「４年制大学レベルの教育を受けた幼稚園教諭一種免許取得者」の印象は、机上の知識への偏りが危惧され、また「即戦力」となる人材か否かは賛否が分かれるものの、おおむね知的な能力・技術や社会性の高さが期待されていると考えられる。中には、そうした期待を短期大学生との比較で述べた施設もあった。ただし、そうした施設の中には、現在のところ幼稚園教諭一種免許を取得した職員が雇用されていない施設もあり、実体験を踏まえているのか否かは不明である。いずれにせよ、そこには「知的な能力・技術や社会性の高低の根拠」と「学歴の違い」との規範的な結びつきが見られる。保育者に限らず、学歴のようなカテゴリーを通して人物が評価されることは日常的になされている[6)]ので、養成大学側には当該カテゴリーへの期待に相応しい人材の養成が求められよう。

それには、全国の４年制カリキュラム創設の動きに合せた養成課程が必要であると考えられる。たとえば、2013（平成25）年１月の「第９回保育士養成課程等検討会」において提出された試案のような、「相談援助系」「養護系」「障害系」「保育系」「教育系」等の学習系列を追加した養成課程などは、保育現場からの期待に応える養成課程の具体像を考えるうえで示唆に富んだものであると言えよう。

今回の一連の分析は、今後の保育者養成課程における教育のあり方をめぐる研究として、より広範な文脈で考察していく必要があるだろう。今後の課題としたい。

注

１）アンケートの自由記述欄を大量に分析する際、近年はテキストマイニングツールを使用し、そのうえで統計的に回答傾向を分析することも多いが､今回の分析では同ツール類は使用していない。その主たる理由は、自由記述欄への回答全体から見える傾向よりも施設や地域ごとの固有の語り方に着目するためであり、そのためには言葉の結びつけられ方から見える規範を手作業で明らかにする方が良いと考えての判断である。

おそらく、このような非統計的方法には「たった数件の事例で言って良いのか」という批判もあるだろう。本稿では、わずかな事例から一般化された言明を導くことへの恣意性批判に対する北澤の反論（北澤 2004, pp.18-19）に倣い、選択肢ま

たは数値による回答内容と自由記述による回答内容とは性質の異なる研究対象として捉えており、それが分析方法にも反映されている。前者はすでに「島根県における保育士・幼稚園教諭の採用実態と人材養成の課題（１）（２）」において、母集団が想定されたサンプルデータとして分析されている。それに対し後者は、端的に実際に文章として記述された事例であり、その外部に想定された母集団や社会秩序を指示する「例証」ではなく、その事例のなかにこそ「秩序が宿っている」ものと見做されて分析されることになる。

なお、自由記述欄回答一覧では他の選択式回答項目を併記していないが、これは回答した施設の匿名性を高めるための措置である。

２）このような方法で原文に手を加えるにあたり、『保育士養成資料集第56号』での方法（p. ２）を参考にした。

３）広田の指摘では、すでに1970年代頃から高学歴化や社会の情報化により、育児や家庭教育の細かなノウハウをどの階層の親でも手に入れることが可能になり、また子どものことで学校や行政と交渉するだけの知識やノウハウを身につけることも可能になってきている（広田 1999, p.122）。また近年の親は、外部の様々な教育機会を細かくチェックして注意深く使いこなすジェネラル・マネージャーとしての役割も遂行するようになってきており、学校やお稽古事などは「わが子の教育」に関心を燃やす親たちの批判的な注視のもとにさらされている（同上, pp.126-130）。

４）近年は４年制大学も短期大学も、学校教育法の規定する目的に基づき「学術的な幅広い知識」「専門の学芸」「知的、道徳的及び応用的能力」「職業に必要な能力」の配分を試行錯誤的に運用している（廿日出 2011, p.68）こともあり、知識の質の高さおよび知識と職業に必要な能力との結びつきは、いずれの大学に対しても保育現場や社会からいっそう問われるのではないだろうか。

５）この会議について、日本経済新聞（2013年10月19日付朝刊５面）では「各施設の収入に直結するため厳しい議論が予想される」、山陰中央新報（同３面）では「委員からは保育士不足の現状を踏まえ『人材確保のために職員の人件費を高く見積もるべきだ』との意見が出た」と報じられており、トーンは異なるがいずれも待遇の問題の大きさと改善への可能性を感じさせる。なお、毎日新聞（同６面）では「低年齢ほど増額し、３歳児を中心に職員配置を手厚くして質の改善をはかる」と報じられており、社会の関心が３歳未満児中心保育に寄っていることも窺える。

６）人がカテゴリーを通して理解されること、カテゴリーにはそれがいかなる存在であるかという知識が結びついていることについては、サックス（Sacks）の説明が詳しい。私たちは、どのカテゴリー（たとえば短期大学卒や４年制大学卒に限らず、若者、初任者、女性などあらゆるカテゴリー）についても豊富な知識を持っている。また、どのメンバーもこうしたカテゴリーのどれかを代表するものとして見られ、あるカテゴリーにあてはまる人は誰でもそのカテゴリーの一人のメンバーとして見られる。そのため、もしある人が○○をしたなら、そうした出来事は特定の個人△△がしたのではなく、△△に適用可能なカテゴリー××のメンバーが○○をしたのだと見られることになる（Sacks訳書 1987, pp.33-34）。

参考文献・資料

廿日出里美，2011，「保育者養成という現場の日常：人々を実践に向かわせる知の再構成」『教育社会学研究』88: 65-86.

広田照幸，1999，『日本人のしつけは衰退したか：「教育する家族」のゆくえ』，講談社.

北澤毅，2004，「構築主義実証研究のための方法論ノート」『立教大学教育学科研究年報』47: 13-23.

松原由美，2013，「４年制大学における保育士・幼稚園教諭養成の課題：宮崎県内公私立保育所及び幼稚園現場からのアンケートによる考察」『九州保健福祉大学研究紀要』14: 57-67.

Sacks, Harvey, 1979, "Hotrodder: A Revolutionary Category," Psathas, George (ed), Everyday Language: Studies in Ethnomethodology, New

York Irvington Publisher, 7-14.（＝1987, 山田富秋・好井裕明・山崎敬一訳「ホットロッダー：革命的カテゴリー」『エスノメソドロジー：社会学的思考の解体』, せりか書房, 19-37.）

社団法人全国保育士養成協議会編, 2012,『保育士養成資料集第56号 「指定保育士養成施設教員の実態に関する調査」報告書II：調査結果からの展開』

第９回保育士養成課程等検討会資料, 2013,「保育士資格・幼稚園教諭免許及び養成課程の構造（試案）」http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000002ugji-att/2r9852000002ugmg.pdf（最終アクセス日：2013年11月12日）

子ども・子育て会議基準検討部会第６回資料, 2013,「公定価格について」http://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/kodomo_kosodate/b_6/pdf/s1.pdf（最終アクセス日：2013年11月12日）

文部科学省, 2006,「幼児教育振興アクションプログラム」http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/07121721/001.htm（最終アクセス日：2013年11月12日）

（受稿 平成25年11月29日，受理 平成25年12月12日）

資料

Ｑ７を「かなりそう思う」「そう思う」と回答した理由の自由記述

整理番号	自由記述欄の内容
A-1	幼稚園が今後認定こども園として移行していくと思われる為、また、短大卒の先生たちも１種免許を取得する為に島大他で毎年、単位を取っているので。
A-2	新システムの導入による為。
A-3	幼稚園教員、保育士共に携る職員の資質が問われる時代になってきている。4 年生大学又はそれと同等の教育を受けた人材が、現場には必要だと思う。
A-4	教育の面でレベルの高いものを雇用したいと思う。※教育内容の強化は当然であると思うが、社会性の欠如・モラルの無い方が多くある。挨拶を正しくできる、仕事に対しての取組み等を教えていただけたらと思います。モラル等子供に伝える側として当然正しくしてもらいたい。
A-5	幼保園化の流れが大きくなるなかで職員資格として求められ取得者の雇用は拡大すると思われる。
A-6	現場の保育士としては、経験の積み重ねだと思うが、研究などにおいてはそう思うところもある。
A-7	保育士の雇用拡大が急がれる問題であり、現場においては、質の高い保育者が望まれるため。
A-8	現在の職員を見ても、短大と大学の養成された、また、それを受けて社会に出た人材に大きな開きを感じることが多い。2 年間と 4 年間の社会人への準備期間の違いかもしれないがレベルの差は感じることが多い。
A-9	出雲市立幼稚園は、15 年ぐらい前から 4 年大学（幼稚園教諭１種取得）を卒業した者が採用されることが、ほとんどである。
A-10	幼児教育の重要性を考えると、採用前にしっかりと教育者としての基礎作りをしてほしい。
A-11	安来市の状況でいいますと、近年は 4 大卒の採用者が増えています、保育所・幼稚園間の異動もあります。
A-12	これから特に松江市は幼保園化を目指している。そこで働く職員の資格は保育士と幼稚園教諭を求められる。一緒に働き将来的な事を考えると保育士と幼稚園教諭一種があればもめることもないと思う。教育内容については、保育士が学んでいる 0 歳からの内容を強化し、0 歳～小学生・中学生→と人の成長にあわせ一貫した（教育・保育）につなげられるとよい。
A-13	4 年生大学を出ていた方が、短大より知識があると思われているから。
A-14	保育の質の向上に役立つと思う。
A-15	保育教諭の質の向上を願うから。
A-16	就学前の教育迄責任をもち行うため受け入れたい。
A-17	乳幼児期の保育・教育は学齢期以上に重要であり、今後はそのことが、広く社会に認知されるべきであると考えます。これまで以上の専門的知識・技術を持ち、幅広い学識をもった心豊かな人材が、保育に携わる社会になることを願うからです。
A-18	“乳幼児を保育する”という仕事は、今、幅広く考えなくてはならない分野だと思う。幼稚園教諭１種免許取得のみならず、未来を担う子どもを保育、教育する上で、大人の体験が子どもに大きく影響してくる。反面、保育の場では、処遇を含めて、厳しさもある中、4 大卒業生を正職員として迎えるにあたり、先行きが不透明ということもあるかもしれない。
A-19	保育現場で専門知識が幅広く求められる事も多くなり、4 年制大学レベルの教育を受けた職員の活躍が今後ますます必要とされると考える。
A-20	これからより専門性を高めるためには必ようではないでしょうか？
A-21	人手不足であるので。
A-22	保育内容を含め求められるレベルは高くなってきています（保護支援等）より高いレベルの教育が必要となり、習得している人材を求めることになると考えます。
A-23	専門教育だけでなく、幅広く様々な経験をして人として成長していくことが望まれるから。
A-24	認定子ども園が増える中、幼稚園教諭取得者の存在も必要になると思うので….。
A-25	2 年間では忙しすぎ。保育士の任務の重大さを考えた時 4 年制の教育を受けた人がより必要とされる。
A-26	保育教育の専門性が求められるから。
A-27	現代は子どもの発達が著しく家庭（保護者）への対応も複雑化してきている。知識や能力の高度な質のある職員がもとめられているのではないかと思う。
A-28	今、松江市の採用条件は保と幼の資格をどちらも持っているということだが、今後、幼の１種免許資格を持っている者という条件がつくことになるのではないかと思われるため。
A-29	保育所に期待される未来像の具現化には、保育士の資質向上は欠かせない。保育所もそのような人材を求める方向で進むと思うので大学レベルでの教育に期待する。
A-30	雇用の受け皿はあると思います。ただ 2 年課程では、足りない。
A-31	よりレベルの高い保育者は求められるべき。
A-32	採用時、1 種免許取得者の雇用を優先されると予想される為。
A-33	専門知識が深まり即戦力が期待できるから。
A-34	保育の質＝保育士の質がかなり重要と考えている。
A-35	幼保園的施設の増大に合わせて、4 年大卒の雇用が拡大していくと思われる。※知識としてのレベルアップも必要だが、人間的に（人の心の読みとれる）豊かな人材育成が大切だと思う。4 年生課程となって、それが可能とは言えないと思うが、机の上での学びと共に、たくさんの人間関係（コミュニケーション能力）を学んでほしい。
A-36	松江市で採用される方も 4 年制大出身が多いように思う。
A-37	現在の保育園においての保育の質の向上また認定こども園の増加が予想されるので。
A-38	二種免許の有している者でも優秀な人材もいるので一種の資格者のみ拡大するのもよいかどうかわからない。
A-39	認定こども園が拡大しているため。
A-40	幼児教育について核となる職員が必要である。
A-41	教育と養護をもっと勉強してきてほしい。
A-42	管理職試験等、将来受験する場合、一種免許は必要だと考える。幼児教育のレベルアップをはかりたいという流れの中で、保・幼の両方の免許は、保であっても必要ではないかと思う。
A-43	人を導く、かかわる仕事につくには、知識と考える力が必要である。短大卒では、考える力が弱い。大人として成熟していない。
A-44	保育の質が向上するため。
A-45	・身近なところで、進学先、就職先が無かったから保育士の道を選んだという話を多々聞く。命を預かる保育現場では、幼児教育に情熱を持ち、知識と技術を兼ね備え、人とのコミュニケーションが構築できる人を求めている。そういう人材育成が重要課題ではないでしょうか。 ・幼児教育充実のため、学生のスキルアップのためにも大学レベルの教育は必要であると思う。 ・最近の保育士の中には子どもと向き合う、関わる、指導するということが苦手な人が見受けられる。本当は、1 種、2 種に関わらず幼児教育が実践でき、即、現場で役立つ人を育ててほしい。又、ピアノが弾けることは専門職として必要条件である。条件を満たし、社会に出て役立つ学生の育成を望みます。

A-46	受け皿はあるが、給与問題など雇用形態が不安定であり、希望が少ないのではないかと思います。
A-47	東京など都会では 4 大卒の保育士が多くなっているとニュース等でみています。4 大にて、専門的な知識を得、現場で通用する人材の確保が進んでいくと思います。
A-48	今後は認定こども園への移行を考えていかなくてはならないのでより専門性の高い人材が求められるのは必至であると思います。
A-49	より専門を極め、質の高い保育の知識と技能が必要だから。
A-50	専門職としての需要がますます多くなると思われるから。
A-51	今後幼保園化が進むと思うので。
A-52	知識のはばが広い。
A-53	保育所そして保育者に期待される、求められることが多様化している。それに対応するために、多様な学びが必要である。
A-54	人間性、コミュニケーション能力も加味される。
A-55	○○保育園の所に記載したものと同じです。
A-56	○○保育園の所に記載したものと同じです。
A-57	松江市では幼保園が開園しています。（養護はもちろん）教育を考えた場会、さまざまな分野での知識が必要となります。最近、特に要保護家庭児、特別支援を要する児童等が増えてきている現状があります。短大では時間数が足りないのではないかと考えます。
A-58	雇用する方は、1 種免許を希望すると思われる。
A-59	子ども一人ひとりが抱える問題は大きく、又保護者支援の面からも、子育て施設に課せられる課題は大きい。高い知識と教養、スキルが求められる現場として保育士のレベルの底上げは必須である。
A-60	幼稚園 1 種免許取得者を主として採用する園がかなり出る一方、従来どおり 2 種免許で充分と考える園も多く存在し、いわゆる二極化が進んで来ると思います。私たちの法人は前者を採りたいと考えているところです。今後利用される保護者の考え方にもよりますが、保護者自身の高学歴化を考えると 1 種免許、四年制大学卒業者が好感をもたれることは言うまでもありません。と同時に小学校教諭の免許も保持すべき（小学校との連けい）という社会の流れができて来ると思われます。いずれにしても 1 種免許保持者の雇用は拡大されてくると思います。
A-61	こども園への移行等あり、免許取得者への要望は高まっていくと考える。
A-62	乳幼児教育が今後ますます重要で必要とされつつある。
A-63	理論だけでなく、実習等を充実させてから現場へ出ていく必要があるので、4 年制レベルの教育の雇用の受け皿は拡大すると思われる。
A-64	採用に関係している人事課職員がそういう思いを持っている。
A-65	年次定年退職者がある為。
A-66	国がそのように示してくれれば、事業所は従っていくようになるのではないかと思う。
A-67	幼保一元化の方向に有り、保育園としては幼 1 種免許取得者採用を考える。
A-68	4 年制大学の卒業生も増えることが予想される。
A-69	今よりさらに、専門性が必要になると思うので。
A-70	H27 年以後、認定こども園移行にともない、幼児教育が学校教育として表記されるため、幼稚園教諭 1 種の免許状を得ていると優遇されると思える。
A-71	保育士の質の向上、レベルアップにも幼稚園 1 種免許取得者の採用は必要であると考える。
A-72	どちらかと言うと、短大卒の新任保育士の多くは、社会性や保育の質が低いから。
A-73	今後は更に幼児教育の重要性から、知識に加え、保育者としての専門性が求められると思われるため。
A-74	幼児教育の分野で高い専門性が必要とされる現在、これからニーズは増えると思う。
A-75	社会的養護の担い手として、保育者の専門性、重要性を期待する。
A-76	保護者が求める保育者の質は高く、教育的なものも求められている為。
A-77	認定こども園が増加している中で、制度の変化と乳幼児教育の重要性からして、保育士と幼稚園資格両方が望ましい。2 つの資格を 2 年間で修得するにはかなりハードであり、これから 4 年間の勉学期間が必要と思われる。
A-78	・より専門的知識や資格が必要となるから。 ・市内でもここ数年の採用者の割り合いが 4 年制大卒者が多い。
A-79	保育士の保育内容の質向上のためには、今までの 2 年では、学びきれないと思われる。今までは、4 年大学を出た人が求人募集に来ることがなかったが職員の入れ替わりに合わせて是非雇用したい。
A-80	・多様化する社会に対応できる専門性が必要とされている度合いがますます高まってくると思う。 ・障害のある・なしにかかわらず、支援を必要とする幼児がふえる傾向にあるように感じている。経験も必要であるが基礎となる部分をしっかりと学んだ人材が今後ますます必要とされると考える。
A-81	待機児童解消のため。
A-82	質の高い教育にするためにも必要と思う。
A-83	幼児教育の専門性が問われ、保育所の質の向上が必須となっている現状では、質の高い人材を雇用し、かつ離職率の高い保育職場での指導的役割を担う人材が必要だから。
A-84	保育所に求められる教育的内容に応えるため。
A-85	質の向上が求められているため。
A-86	二年間の在学では、なかなか保育士の専門的な知識も得られないと思う。（足りないと思う）四年間のうちに資質を向上してすぐに現場で適用できる人材を育ててほしいと思う。
A-87	いろいろな問題を抱えている子が多いのでそれに対応するために知識が必要である。
A-88	乳幼児期は世話の部分で必要人数がいるが、一番成長に大切な時期である為、脳・身体の成長に合わせた、（個人個人は難しい面を含むが）保育・教育の仕方を学問的にも考えるべきであろう。小・中・高になって脳・身体の成長の土台が大切であると思う。なかなか成果の見えないことであるので実行がどこまで可能か考えるところである。
A-89	今後は質の高い幼児教育・保育を提供することが求められるから。
A-90	拡大してほしい。
A-91	一般教養、専門知識をしっかり習得していたほうが、現場で指導しやすいです。また、2 年制卒は 20 歳、4 年制卒は 22 歳といった年齢の違いから経験や思考力の差を感じます。雇用の際に、学力・適性・性格などの条件が同じであるなら、4 年制卒の人を選びたいと思います。
A-92	専門性。

Ｑ７を「そう思わない」と回答した理由の自由記述

整理番号	自由記述欄の内容
B-1	具体的な事がわからない状況。
B-2	幼稚園のない地域から見ると１種、２種の差の必要性が実感できない。有資格者の確保も難しい地域は、都市部との課題のギャップを感じる。
B-3	乳幼児の減少。
B-4	それに見合う給与体系、運営費の仕組みになっていない。
B-5	少子化の傾向にある中、ある程度の知識を得たら実践を学んだほうが良いのでは…!
B-6	保育士として４年制大学まで必要ないと思う。頭でっかちになり理論ばかりか？心のある保育士で良いと思う。
B-7	レベルを上げるのは良いが、４大生の受け皿にはならない。（保育園では）
B-8	松江市においては、幼稚園教員採用が２種をもっていれば可能である。また管理職試験の資格において現在は２種のままでいいので拡大するとは思わない。しかし、松江市の考え方はおかしい。管理職は１種保有の必要があると考える。１種免許取得の為に夏季に島大で講座を受けている人が幼稚園に沢山いる。実践力を教化している県短で最初から１種がとれるようになれば、いいと思う。
B-9	現場が欲しているのは知識ではなく、経験者や行動力のある人材である。
B-10	４年制でも短大卒でも仕事の内容は同じでも給与の面で差がつくためなかなか４年制を雇用する職場は少ないと思う。
B-11	机上でたくさんなことを知識で得たり、覚えたりすることがベストと思わない。もちろん学びはとても大切なことでそれをベースにして欲しいと願っていますが。私は保育は教育的配慮をもった生活そのものだと思いますので、保育士に強く求めるものは人との関係や一般社会で普通に秩序を保って生活できる良き人を求めています。ひとことで言うのは困難ですが、さらに言うならば、たとえば絵本で言うならば、シャーロット・ゾロトウ作の「かぜはどこへいくの」でわかるように保育士は鋭い洞察力やこどもとの絶妙な会話ができる…そんな人であって欲しいといつも願っています。どれだけ長く学校に通ったか、ではなくどれだけいろんな経験をし、どれだけ深くものごとを考えてきたかのように思います。私は個人的には頭のやわらかい段階、短大卒での保育士を育てあげたいのですが…（時代遅れ？でしょうか）
B-12	机上より現場で学ぶことが多いと考えるから。
B-13	子どもの数は、そう極端に増えていないため、今現在ある受け皿から拡大するとはあまり思えないから。
B-14	現在保育士不足である。島根西部に養成校が必要と思う。
B-15	今でも既に増大、拡大している。今と変わらないと思うので思わないにした。又、「子ども子育て会議」でのことは、１種免許取得者増大が「望ましい」ということになるから、必須ではないと思う。
B-16	今後、４年制大学レベルの教育を受けた人を優先して雇用する予定が特にない為。
B-17	保幼が一緒になった施設が確実に増えていくということは考えられないため。
B-18	島根県立大学を卒業し、公立幼稚園で働いていますが、公立幼稚園の場合は短大レベル、４年制大学レベルでも雇用の受け皿は変わらないと感じるため。
B-19	２年制か４年制か、２種か１種かという問題ではない気がします。
B-20	学識的レベルが高いに越したことはないが、１種と２種で、どれだけの差があるのかは疑問であり、（これまでの経験上、特に差はないように思う）、最終的には、その人の人間性（人柄）→（仕事（福祉）に対する熱意と知識を上回る実技能力）が重要であると考えるため。
B-21	受け入れ側がそこまでの人材を求めていないのではないか。
B-22	幼稚園の統廃合がすすむ状況にあり、雇用が厳しくなっていく状況と考える。
B-23	４年制大学卒で期待される程の給与の支給が難しい。
B-24	こども園の設置が進まない現状では保育所の不足（保育士の不足）が問題となっている。保育士確保が優先課題だと思われる。
B-25	１種免許が取得できるための開設は必要と思います。専門的なこと多方面にいろいろなことを身につけてきてほしいと思います。しかし、この職場は、現場の中で、子どもと接し、先輩の保育を見、学び、成長していっています。体験の少ない若い保育士が増えています。今、体験の少ない若い保育士達が増えています。学校の中で学べないことも多いかなと感じています。そう思うと、２年で現場に入り、しっかり体験を通し学び、研修も重ね、成長していくことも大切かなと…。今、現場は、保育士が足りなくて困っています。地元の学校から、地元の保育士（地域を知っている）が、地元の保育所・幼稚園で働く…そういう流れが必要と感じています。優秀な人材を求めます。
B-26	小規模施設での採用が毎年あるわけではない。
B-27	人件費に見合う補助金が保障されなければ、採用に至らないと思う。現在の職員の処遇状況が改善されなければ現状は変わらないと思う。
B-28	２年制課程で十分であり早く現場に出て経験をつんでもらいたい。
B-29	少子化と親の就労。
B-30	４年制レベルの資格者がたくさん雇用されるということは特にないような気がする。採用された学生の熱意や技術の問題である。公立は保育現場が縮小されていくので採用も少なくなる。
B-31	現在は待機児がいるので、そういった資格等と言われていますが、いつまでも続かないと思います。また、新保育指針も、学校教育指針も、同じようになっているので、それぞれの特性をいかしながら保育の拡充をはかるものと思います。
B-32	正規雇用が拡大していかなければ難しいと考える。若者が安心、安定して働ける雇用状況を創出することが先決である。
B-33	大卒だからと、賃金を高くすることは、できにくい（制度的に必要にせまられない限り、今のところ拡大はないと思う）。両者を見たとき、入った時の差異（その人なり）はあまりなく、むしろ、その園で少しでも長く学んでいくことも必要と思われる。
B-34	現在の制度では短大生も４年制大生も雇用面において差はないから。
B-35	近年がピークで人数減少する。
B-36	現場で勉強していくこともあるから。
B-37	保育士は多様な専門性を今後ますます求められるが、その処遇はたいへん低く支払える給与も低いため。
B-38	現状の制度では必要ないと思われる。
B-39	今後少子化は一層加速が考えられる。幼稚園教諭１種免許がどうしても必要とは思わない。現行でも十分と思う。内容の強化が必要。
B-40	２年間であっても、必要な資質は、社会人としての基本的な事項、コミュニケーション力、課題意識、困難な事態に対応する力等です。４年制大学レベルの教育のみを重視にならないように願います。現場での即戦力が必要です。
B-41	実践が主なので短大卒でも子どもとかかわる力があればよい。
B-42	今の保育所では採用はむずかしい。
B-43	４年制大学生を保育所が採用するとは思わない。
B-44	４年大学卒の処遇が一般企業の様には出来ないから。
B-45	有資格者の雇用が義務づけられない限り、子供が減ってきている現状では現在の職員を解雇しないことには拡大の余地がないから。そもそも保育士が不足している地域のことは全くわからない。
B-46	職員処遇、賃金体系等の改善が必要不可欠。

B-47	増えていくことにこしたことはないが、大学卒の人材を数多く雇用できるほどの収入はない。国の制度が変わらないかぎり、困難であると思う。
B-48	現場においては知識も大切だが、経験がより大切だと思う。
B-49	処遇の課題等、連動した方針でないため。
B-50	雇用する側は、仕事に対する熱意と人柄を重視するので４年制卒だから受け皿が拡大するとは思わない。
B-51	現場では「情熱」があり、前向きな職員を求めている。
B-52	子ども子育て会議が、また不透明でよくわからないが、現在保育士不足であり、４大の受け皿が拡大するとは思わない。
B-53	１種免許取得者と２種免許取得者のちがいがわかりにくい。４年制で幼児教育をしっかり学ぶことは基本的には良いことだと思っています。小学校以降の免許をあわせて取得できるとした場合、両方で通用できるような力をつけていただきたい。
B-54	公立幼稚園は園児減少等による統廃合等（経済的理由も加わって）があり、雇用の拡大が望めない現状なので。
B-55	２年制４年制、１種２種よりも仕事を行うにあたっての考え方、熱意等の人間性が重要と考える。
B-56	現実として保育士不足がいわれているので、幼教よりも保育士の受け皿が、ふえると思う。
B-57	あくまでも大田市としての考えですが、幼稚園の１種免許の受け皿が今後拡大していくとは思えないため。
B-58	保育者の絶対数が不足する中で、給与等の待遇の改善がなされない限り、高い資格云々は二の次である。
B-59	人件費が高くなるため雇用は拡がらないと思う。
B-60	現場では資格の１種２種についてよりも本人自身の資質等が重要。
B-61	教育レベルをあげるのではなく、現場での実習にもっと力を入れる。子どもにとって何が必要か、何が重要か、体験を通して関わる力をつけてもらいたい。
B-62	公立の幼稚園が減少している為、雇用はほとんどないと考えるから。
B-63	苦しい経営状況の中、これから保育園が変わっていくことが全く想像できないから。（職員の処遇改善等が行われるとは思えない）
B-64	園児数の減少により、雇用が増えることはないと思うから。しかし質の高い保育ができる面から考えればより高い教育を受けた方が良い。
B-65	４年大学を出たからといって保育が出来るわけではない。※保育士不足解消が第一条件です。現在も不足しており、すぐに現場で保育が出来る職員が欲しいです。

Ｑ７を「わからない」と回答した理由の、または回答なし・複数回答などイレギュラーな回答をしたものの自由記述

整理番号	自由記述欄の内容
C-1	現実の職場としては資格の上下は殆ど関係なく「良い職員とは周りの人間関係が構築できる人」と考えています。学歴は全く無意味です。ただ、法律により資格要件が定まっているので雇用せざるを得ない状況です。
C-2	保育業務の多様化、特に保護者支援における専門性が求められている（心のケアも含めて）。又、保育現場で、新入保育士の養成機能が低下しており、（ゆとりがなくなってきている）採用されると、すぐにクラスを任せられてしまうこともあるが、学生の間に現場の経験が少ないと、保護者の前に立つことができない。
C-3	給与の関係で短大卒の方と大学卒の方との差を作ることができない。（１種、２種で差をつけることもむずかしい）遠い将来は分からないが、近い所でいうと大学卒を特に雇用しようとは考えていない。
C-4	より保育士が専門性を求められている現状なので、教育内容は強化してほしいが…。保育という仕事をしっかりとつづけていける人を望むというのが本音です。
C-5	実際のところわかりません。最近の出雲市の幼稚園正規採用者を見ると、４年制大学卒業で１種免許状を取得している人の割合が高いです。（募集では短大卒程度となっています。）４年間で、より広く深く幼児教育を学んだ人の採用が増えるのではないか。と思います。
C-6	公共の施設なので、市の方針により採用が決まるので、個人的な考えでは言えないところがあります。幼児期は人間形成の基となる大切な時期であり、そこに関わる保育者の質が問われるところであると思います。保育者養成校の教育内容（年数）によるところも大きいと思いますが、実際のところ、保育現場での学びと、本人の感性の豊かさ、その人なり等が大切だと思われます。
C-7	子どもの減少により雇用の拡大は望めないと思うが、離退職者はあるし、認定こども園等の増加を考えると需要は横ばいくらいかと思う。
C-8	個人的意見ですが、短大卒で、早く現場に出て現場で学んで、一日でも早く信頼できる先生になってほしいと思います。二年で資格や免許がとれる課程は残し、さらに勉強したい方のために、次の課程があるといいと思います。
C-9	これから幼保園が増えるのであれば、大学の方でも、保育士の資格がとれるようになったほうがいいのではないでしょうか…。
C-10	・現場は短大卒であれ４年制大学であれ、幼稚園教諭をめざす一人の人間としての人格や資質、職業人としての仕事に対する姿勢や意欲態度等が備わっていれば、１種・２種の違いはあまりないと思います。あとは実践を通して身についていくことが多いですから。 ・当園では毎年各大学等からの実習生を多く受け入れていますが、卒業して現場に入って来られても不安を覚えてしまう学生さんも見うけられるため、上記したことをしっかりと身に付け、卒業と同時にクラス担任でももてる様な実践力のある人材の育成をお願いしたいと思います。